

銚子市公立保育所関係者再編方針（案）説明会 （市民説明会第2回） 概要

- 1 日時 令和2年1月21日（火） 午後7時から午後9時
- 2 場所 市民センター ホール
- 3 参加者

市民	事務局職員	合計
48名	6名	54名

4 概要

- (1) 事務局職員紹介
- (2) あいさつ（山口子育て支援課長）
- (3) 内容説明（神崎課長補佐）
- (4) 質疑応答

【市民】

行革の流れの中、支出削減を早急に進めるため、海鹿島保育所の閉所を主軸に作成された保育所の再編計画と考えるのがいかがか。

【事務局】

第一保育所閉所後も引き続き保育所再編を検討することになっていたが、具体的な検討はしていなかった。確かに緊急財政対策で再編のスピードを上げることが求められたが、海鹿島保育所を閉めるために検討を行ったわけではない。二つの保育所を残すとしたら、どこを残すかという検討をしてきた。

【市民】

子ども・子育て会議15名の委員に海鹿島保育所の指定管理者である社会福祉事業団が選ばれていないのは遺憾である。入っていない理由は。

【事務局】

子ども・子育て会議は各方面の人材を選定し、平成30年5月からの任期で委員を依頼し、保育所や放課後児童クラブについても意見を頂いてきた。意図して会議メンバーに含めなかったわけではない。

【市民】

海鹿島保育所はそれほど市の財政負担になっているのか。聞くところによる

と交付税で措置されているとのことだが、海鹿島保育所に対する市の負担は少なく財政上の問題からも除外されるのではと考えるが。

【事務局】

今後も発生するであろう修繕を4つの保育所分抱えていくのは財政的にも難しい状況。

【市民】

海鹿島保育所の老朽化について専門家の現地調査はしたのか。

【事務局】

建物自体は古いが丁寧に使っている印象はある。ただし、水道管など表から見えない部分の修繕が出てきた時に、急遽の対応が財政的に難しい状況である。

詳しい調査は実施していない。

【市民】

この保育所再編方針は案ですか。決定ではありませんよね。

【事務局】

ここにあるように、現時点では案。海鹿島保育所では1月9日から、第三保育所では1月10日から説明会を始めた。

【市民】

再編方針策定の背景に「子ども達にとってより良い環境の整備、保護者が安心して子育てができる環境の整備」とあるが、海鹿島保育所はこのような環境を満たしているといえる。閉所は相反するのでは。

【事務局】

保護者が安心して子育てできる環境の整備という点で、保育所に入所しているお子さん以外が利用する、一時預かり事業が第二保育所にはある。保育所は入所しているお子さんのためだけにあるのではなく、通っていないお子さんのためにも必要。そのような機能を残すことも考慮する必要がある。

【市民】

海鹿島保育所を運営している銚子市社会福祉事業団は民間なのでは。

【事務局】

民間の社会福祉法人ですが、海鹿島保育所は市所有の土地建物なので、公設民営、公立保育所であり、再編対象である。

【市民】

子どもの数は減少していても未満児は増えている。海鹿島保育所では29名の未満児保育を行っている。このことについてはどのように考えるか。

【事務局】

未満児保育の重要性は認識している。確かに、子どもの数は減少していても、3歳未満の児童の入所は減少していない。それでも待機児童を出さない見込みの、再編の案を示した。

【市民】

公表された保育所再編方針案に対して、パブリックコメントの意見はどの程度反映されるものとなるのか。

【事務局】

再編について賛否はあると思う。再編が避けられないのであれば、一番影響が少ない形を考え抜き、子ども・子育て会議での意見も伺いながら提示させていただいたもので、市としては案として進めていきたいが、市民の方の大多数の反対の声があればそれも無視できない。

【市民】

パブリックコメントの提出方法を、携帯を使って答えられるフォームメールなどを取り入れて欲しい。今回のパブリックコメントについて意見を提出したのは20代から40代の方だと思うので、より多くの方が意見を出しやすくなると思う。

【事務局】

今回は、市が今までやってきたパブリックコメントのやり方を踏襲したものだが、今の時代に馴染むか、というのは今後の市としての検討課題と考える。

【市民】

西に一つ、東に一つとするにあたり、第二保育所は選んだ理由の決め手に欠ける。第三は比較的新しい、駐車場は海鹿島が一番整っている。第二は近隣の交通量が多く右折進入ができない場所と聞いた。

【事務局】

資料にあるように第三保育所の方が少し新しいが、第二保育所とはそれほど変わらない。公立保育所を閉めていった時に、受け入れができるようするため。再編して待機児童を発生させることのないように、と考えた結果、定員が多く面積が広く、保育室の数が多い第二保育所を残す案を提示した。

周辺道路の状況として、右折はできないが、一時保育を行うための部屋が確保

できることを考慮した。

【市民】

第二保育所を残す理由が、定員が多く他の保育所を閉めた時に児童を受け入れるようにということだが、これでは「民間活力の活用」には繋がらない。私立に受け入れてもらうことにはならないのか、という印象がある。

【事務局】

どこの保育所に移るかというのは、お子さんと保護者の希望による。民間保育所に移っていただく選択肢は当然にあるが、民間保育所を選ばなかった場合に、公立保育所が受けるのは責務。受け入れできるようにと案を提示した。また、第二保育所の目の前には公園があり、保育時間に公園での活動も容易にできる。一日の大半を過ごす保育所の環境に、このような点も考慮した。

【市民】

土日に子どもを預かってもらえる保育所があると良いと思う。ボランティアを募ってやっていただくなど、公立でやってもらえるの良いのではないだろうか。

【事務局】

土日の保育ができれば良いと考えるが、保育士確保の点からすると現時点では難しい。

【市民】

最近では小規模保育所などがうたわれている。子どもへの愛情という面で見かぎなものか。

【事務局】

小規模保育所は定員20人以下の少人数の保育所で、東京近郊の場合広い土地の確保が出来ないため、このような保育所が数多くできているという現状を聞いている。

人数の大きな保育所に移ったら、子ども一人ひとりに対する愛情が減ってしまうのではないかと心配は理解できる。しかし、120人の子どもが通う保育所でも、子ども一人ひとりに向き合うということに関して、単に120分の1になるわけではない。保育士はそれを学んできているし、経験も積んでいる。その点についての心配は必要は無いと考える。

【市民】

財政状況や維持管理費が持てないということで、四つの保育所を統合し、大き

な規模の保育所にするのは急ぐべきではないのではと思うがいかがか。

【事務局】

財政状況というのは背景にあるが、それのみではなく、子どもの数の減少、それに伴う集団生活の機会の喪失等、先ほどの説明にもあったとおり。

子どもの数の減少を受け入れてしまっているのではないかと、との意見もあったが市として静観しているわけではなく、力及ばずではあるが、平成22年から子育て広場の開設、子育て相談のための「子育てコンシェルジュ」の配置、「すくサポ」の名称の相談組織の設置、放課後児童クラブの受け入れ対象年齢の引き上げ、インフルエンザ予防接種の助成を開始、子ども医療費助成の所得制限の撤廃、子育てLINEの配信などの努力はしているが、残念ながら子どもの数の増加に直接数字には表れていない。子どもを増やそう、減少するのを抑制しようと努力しているところであるので、ご理解いただきたい。

【市民】

保育所を移るとなった場合、環境が変わることで、子ども達に心理的ストレスがかかると思われる。第一保育所を閉所した時に、子ども達に対してどのようなケアをしていたのか。また、今回方針案が進んだ場合に具体的にどのようなケアをしていく予定か。

【事務局】

第一保育所閉所の際は、近くにあった第三保育所と行事を一緒に行うなどし、保育所の場所、子ども達に慣れていってもらったということがあった。

子どもによっては、こだわりが強かったり自分のルールがあったりして、環境への変化に対応が難しいお子さんもいると思われる。第二、第三、第四保育所には児童発達支援センターでの勤務経験のある保育士も配置しており、受け入れの体制は整えている。

【市民】

海鹿島保育所は定員が90人から70人に減ったが、人数が少なくても資料から見ると入所率は高い。人気があり、良い先生がいて、ここなら安心して任せられると思う保護者がたくさんいるからではないのか。

【事務局】

海鹿島保育所の良さは承知している。その上で、ほかの保育所も、通わせている保護者にとっては良さがあるということを、この場で伝えさせていただく。

【市民】

第三保育所も閉所が検討されている。近くの第三保育所に移った後に、第二保

育所にもう一度移らなければならない。また、極端な話、全員が第二保育所に移るとなったらどうするのか。私立に行かなければならないのか。

【事務局】

資料10にあるとおり、令和3年度末で閉所の場合でも受け入れ可能の見込みではあるが、令和4年度末閉所を提案した。来年度0歳で入所の児童は、そのような場合が想定されるが、閉所を見越して第二保育所に移ることも、近くの第三保育所を利用した後に第二保育所に移ることも、また他の私立保育所を選ぶというのも、今すぐでなくてもあと3年の間に検討していただくことが可能と考えている。

お子さんが何度も保育所を移るといのはあまり想定していない。できる限り希望を聞きながら、他の保育所に移れるようにと考えている。保育所を二度移ることはお子さんの負担、保護者の負担になると思うので個別の相談で対応していく。

【市民】

事務局のうち銚子市民で子どものいる方に、保育所はどのようにして選んだのか伺う。

【事務局】

子ども二人とも、産休明けの生後2か月から預けた。結果として自宅と勤務先の間保育園となったが、もし、遠くの保育園となったとしても、入れることができればどこでもよいと考えていた。

【事務局】

「市議会議員がいらしているので、議員の発言を。」という声がありました。会場の時間の都合もありますので、それぞれひとつずつ発言をお願いします。

【議員】

○ 住民の考えと市が違う、市の提案を変えたい、反対したいという場合は私たち議員にぜひ相談してください。議員は全員市民の役に立ちたいと思っている。もし、その議員が自分の考えと違う行動を取ったら次の選挙で入れなければ良いだけの話。不思議に思うが市民の生活の利便性を高めるための政策がほとんどない。また、議員からもそのような提案があまりない。市民の皆さんが便利になるように、子育てが安心できる様にとという市をめざしている。

【議員】

○ 議員になってから一貫して、子育て支援を充実させるように、繰り返し関わってきた。子どもの生まれる数が年々減ってきているというのは現実だが、産休

明けで保育所に子どもを預けたいという希望は多くなっている。働くお母さんは増えていると思う。今回の保育料の無償化も含めて、これからもっと子どもを預けて働く方が増えてくると思う。そのためにも公立保育所の充実を図ることを引き続き、是非、提案したいと思っている。公立保育所のトイレを洋式化したり、子育て広場を常設化するなど具体的施策を市長に提案し実現してきたので、保育所の統廃合についても、公立保育所は残して欲しいし、定員を減少させ4つの保育所は必須なのではと考える。

【議員】

○ 人口がどんどん減って、子どもを増やせ増やせと言っておきながらこのような形をとっていて、どうなのかなと思った。これだけ皆さんの意見があり、真剣に考えてくださっていることを、市長が一回で良いから出て、聞いて欲しいと思った。(来ていないことを) 残念に思う。

【議員】

○ 銚子市政、行政側は市民にとって優しくないと思うところが一点ありました。海鹿島保育園、50年の歴史があるという話ですが、携わってきた方々、支えてきた方々、そして入所された方々、たくさんいらっしやると思います。その思いを財政状況が悪い、人口減少に伴ってというのは、行政側、市政の勝手に、そういったことを解決して皆様に住みよい街を作っていくのが、政治家であり、その案を出すのが行政のトップ越川市政だと思っております。

本日もパブリックコメント、いろいろなご意見があったと思いますが、地域の皆様のために本日越川市長に来ていただいて、我々議員と話しあって良い方法を出していければ良いと思いました。

地域の皆様の声を聴きたいところがありますので、よろしく願いいたします。

【事務局】

海鹿島保育所の指定管理者である銚子市社会福祉事業団の方がいらしているので、ひと言どうぞ。

【指定管理者】

今回の公立保育所再編方針案は多くの疑問点があり、それらについては事業団として意見書の提出を考えている。

本日は一点に絞り意見を述べる。それは建物の状況について、これまでの話に四つとも残すのが良いのではないかとという中で、それが出来ないのは建物の状況という話があった。

平成23年に公表された、銚子市公立保育所再編方針では海鹿島保育所の建

物の状況について海鹿島保育所は建築後43年を経過し、最も古い施設であるが、木造平屋建で修繕が容易、費用も比較的安価で済むため、指定管理者において適切な維持管理が行われており、保育を実施する上で大きな支障は生じていないとされている。今回の再編の方針案では海鹿島保育所は木造平屋建のため、耐震診断は不要ですが、建築後51年を経過し老朽化が進行しています。となっている。この間8年を経過しているのは確かだが、老朽化とは具体的にどこの部分を指すのか、保育を実施するうえで大きな支障が生じているのか、建物について、この間具体的にどのような調査がされたのか。少し省くが、この間、建物の専門的な調査は今後の公立保育所の統廃合の方向性を見極め、海鹿島保育所の必要性が確認できてから調査内容を検討した上で行うとした。と行政改革大綱の実施計画シートにはある。つまり建物の専門的な調査は行われていないということ。

そもそも、統廃合の方向性を見極めてから建物を考えると言いながら、統廃合の方向性に建物の状況を持ち出すのは、論理が破綻している。とはいえ児童の安全は最優先すべきであり、事業団としてもこれまでも早急な調査を要望してきた。

まず、必要な調査を行い、危険度の把握、修繕に掛かる費用などを見極めたいうえで保護者や地元の皆さんも含めて対応を考えるのが当たり前の対応ではないか。

銚子市公共施設総合管理計画でも、「特に施設の廃止・移転など市民生活に大きな影響を及ぼす場合は、地域住民や施設利用者への十分な情報提供や意見交換をしてから進めます。」とある。銚子市が当たり前の対応をされるよう強く要望する。

【事務局】

まだまだ皆様、ご意見ご質問があろうかと思えます。担当の子育て支援課にご質問いただければお答えしますし、現在パブリックコメントを実施中ですので、ご意見を提出していただければ、後に市の考え方を示させていただきます。

意見

- 海鹿島保育所は岩盤の上に建っていて地震にも強いと思う。
- 海鹿島保育所の歴史や背景など良いところが加味されず残念。
- 東部地区の保育所が2つ減り、第二保育所は東部地区では市の中心寄りなので、市の東部の保育所を利用している住民の利便性が著しく損なわれるので

はないかと思う。

○ 保育がどうあるべきか、というのは子どもを産み育てやすい街かの目安になる。

○ 保育所があれば子どもが増えるというものではないが、保育所を減らしてしまったら人口減少のスピードに拍車がかかる。

○ 出生率の低下は全国的な問題であるが、銚子はそれに加えて近隣市に子育て世代が転出しているという現状がある。人口減少のスピードを加速させる保育所の再編は考え直して欲しい。

○ 説明の中で人口減少が当たり前になっているのが気になった。銚子では子育てしにくいので神栖や波崎に移る人が多い。テレビで見たが、子育て支援の充実している街には若い人たちが多く移り住んでいる。人口を減らさないためにも保育所があるということは重要。

○ 市の財政状況はあるかもしれないが、違うことでの行革を行い、お母さんたちに都合が良い子育て環境を無くさないで。全ての保育所を残しても良いと思う。その上で、できることは手伝いたいと思う。

○ 民間だからできる独自の保育内容を展開というのはあると思うが、海鹿島保育所は民間と変わらない事ができている。

○ 多種多様な要望、サービスに対する柔軟性、意思決定の迅速性が公立保育所に無いとするとそれが問題。

○ 西に一つ東に一つとなったとき、第二保育所を選んだ理由が決め手に欠けると思う。

○ 駐車場は海鹿島が一番整っている。第二は近隣の交通量が多く右折進入ができない場所と聞いた。環境としてはあまりよくないのではと思う。

○ 第二保育所を残す理由が、定員が多く他を閉めたときに児童を受け入れできるようにということだが、これでは民間活力の活用につながらない。私立に受け入れてもらうということにはならないのか、という印象がある。

○ (卒園児の祖母の意見を代弁) 孫の送迎は私がすることとなっていたが、自分は車の運転が出来ない。歩いていける海鹿島保育所でなければ、送迎が出来ず、子どもの親たちも仕事ができなかった。